

## コミュニケーション力を磨こう！

第3期 OB 横山 嵩

皆さんは、1週間に何人の人とコミュニケーションをとっていますか？ 50人、100人、200人、あるいはもっと多い人もいるのでしょうか？最近、自分は最低でも150人を越えるように努めています。とはいえ、実際その人数を達成しようとする仕事の中だけでは足りないため、プライベートでもアメフトの社会人リーグの選手や、ジャズバンドなどをやったりして積極的に様々なコミュニティに顔を出すようにしています。さらにその中でも、できるだけメールではなく、会って話をする割合を増やそうと意識しています。その目的はコミュニケーションの感覚を常に鋭い状態で保つためです。

とはいえ、鋭い状態とは自分の中でも非常に感覚的なもののため、具体的にどういう状態だ、と言われると説明しづらいのですが、雑駁に言ってしまうと相手がどう思っているかを読取れる、自分がどう思っているかを相手に伝えられる、という事でしょうか。これは自分の言っていることを理解させる、相手の言っていることを理解する、よりも一歩奥にある部分だと思っています。

今の自分の仕事は企画系の仕事のため必然的に他の人とコミュニケーションを取りながら仕事を進めていく必要があるのですが、社会人になって4年間経つ中で、良いか悪いかは別としても仕事がいかに論理ではなく人間関係や感情で動くものなのか、という事を実感してきました（もちろん、仕事によってはそうでないものもあるとは思いますが）。

その中で最も強く感じたことは、論理的な説明をすることによって相手を「納得」させられればとりあえず仕事は進むという事です。しかし、順調に進んでいるときはそれでも問題ないのですが、ひとたび何かトラブルが発生したり壁にぶつかった時、相手と協力して乗り越えられるかどうかは、相手がいかに自分に「共感」していることが非常に重要であると感じてきました。そして、個人的にはその共感を生み出すためには前述のコミュニケーションが役に立つと考えています。よく、自分はあまりそういったことは得意ではなくて…という人がいますが、多少の性格的な向き不向きはあっても、基本的にはコミュニケーションは場数で磨かれていくものだと思います。冒頭のとにかくたくさんの人と会話する、というのはその場数を意識してのものです。様々な価値観を持った人と会話するというのは基本的な事に見えますが、実は非常に効果的だと思っています。

このような話は社会人のOB・OGの皆様には釈迦に説法かもしれませんが、現役生の中にはもう一歩足りないな、と感じる人も少なくありません。小野ゼミでは高いレベルの論理の構築力やプレゼンテーション技法を学ぶことができると思いますが、それをさらに活かす要素として相手との共感を生み出せるようなコミュニケーション能力は必要だと思います。

現役生の皆さん、人間関係が小野先生とゼミ生とバイト先だけになっていたりしませんか？心当たりがある人は要注意です。小野ゼミの人たちはみな優秀ですが、やっぱり良くも悪くも小野ゼミの考え方というものが染み付いてしまっています。今からでも遅くはありませんから、積極的にいろんな価値観を持った人とコミュニケーションを取ることをお勧めします。